DVDレビュー

世界を均質化する力と闘うために

浅井　隆 Takashi Asai

◂BACK

日本一小さな映画館「アップリンクX」を渋谷で運営しているのが私が社長を務めるアップリンクという会社だ。一九八七年に映画配給会社としてアップリンクを創業しいわゆるアート系の映画を主に配給してきて十八年、一昨年に渋谷の宇田川町に引越した事務所と同じフロアに小さな映画館を作った。映画館といっても、ミニシアターと呼ぶにはおこがましい

“マイクロシアター”というのが相応しいちょっと大きなリビングルームにソファーを四十席設置した空間である。シネコンに通い慣れているお客さんなどはあまりの狭さに「えっ、ここが映画館?」と驚いて笑い出す人もいる。通常映画館には映写機があり35ミリフィルムを上映しているが、ここではフィルムをかける映写機はなく、ビデオプロジェクターを設置してデジタルビデオのフォーマットであるDVカムかDVDで映像を送り出している。小さいけれど時代の先端をいくデジタルシネマというわけである。

「アップリンクX」で上映している作品は、主にドキュメンタリーと日本の若手のインディーズ作品が多い。映画の興行全体を見渡せばドキュメンタリー作品が商業的に公開されるのはまだまだ本数が圧倒的に少ない。

アップリンクは、設立当時から積極的にドキュメンタリー作品を商業映画館で配給してきた。これまでヒットしたドキュメンタリーには天安門事件の真相を描いた『天安門』、パレスチナとイスラエルの子供達の交流を描いた『プロミス』などがある。アップリンク全体の興行成績でも劇映画よりドキュメンタリーの方が上位にきている。

劇映画の多くが小説に原作を頼っている現状を見れば混迷する現代に事実と匹敵するオリジナルの物語を紡ぐのは難しいように思う。書店を覗いてみれば分かる事であるが、書籍の売上ではノンフィクションがフィクションを凌いでいる。今後、映画やDVDの世界でもドキュメンタリーのマーケットがさらに拡大するのは間違いないと思っている。

世界の映画祭にいくと実に多様な数多くの映画が上映されている。しかし日本で公開される映画と言えば例えばカンヌ国際映画祭で上映される映画のうち確実に一割にも満たない数である。映画というのは世界の多様な文化を伝えるのに最適なメディアだと思うが、そういった世界の多様な作品を日本で配給してそれをビジネスとして成功させるのは非常に大変である。

ミニシアターで配給している会社の社長と会うと決まって配給は儲からないという話になる。それでもそういった映画を配給し続けることは世界を均質にしようとする力との“闘い”だと思っている。そして、その闘いに勝つにはビジネスとして成功させなければならない。そこで、アップリンクが選択したのはダウンサイジングである。

客席数二百人の映画館ではそこを維持するためにおのずとエンターテインメント、コマーシャルな映画を上映するしかない。しかし、維持費をぎりぎりまで押さえて、四十人で満員になる映画館であれば、客席数二百人の映画館で上映できない作品も上映できるのである。

「アップリンクX」で上映した作品でヒットしたのは第二位がIMF(国際通貨基金)の融資によって債務国となったジャマイカの現状を描いた『ジャマイカ楽園の真実』で、第一位が現在も上映しているマイケル・ムーアなど総勢四十人のインタビューによって企業を分析した『ザ・コーポレーション』だ。『ザ・コーポレーション』は、現在迄、七千人以上の動員を更新中である(三月三日現在)。二十人も観客が入れば半分客席が埋まっているので、映画を観たいお客さんがいる限り上映を続けられるのもひとえに小さいからできる事である。

さて、アップリンクでは映画、DVDの事業とは別に出版も細々と行っている。最近では金沢21世紀美術館の展示が話題となったマシュー・バーニーの『拘束のドローイング9』や『シルヴィ・ギエム写真集 invitation』などのビジュアル本、サイケデリック革命の父ティモシー・リアリーが亡くなる前に著した『死をデザインする』という本を出版した。

最近はシネコンも書店も巨大化しているが、アップリンクにおいては、出版も映画配給も少部数や少ない観客でも継続して事業ができる構造をダウンサイジングして作ることが世界を均質化する力と闘うために多様な文化を伝えていく一つの戦略だと思っている。

「プロミス」
ジャスティーン・シャピロ＆B・Z・ゴールドバーグ＆カルロス・ボラド監督作品(二〇〇一年)／アップリンク／四、九三五円(税込)

解決の糸口が見えぬまま、対立が続くパレスチナとイスラエル。すぐ近くに住む子どもたちもお互いを知らない。ある日、監督は双方を引き合わせた。打ち解けてサッカーに興じる子どもたち……。その後、三年間かけて、彼らの移ろう思いを追いかけていく。ロッテルダム国際映画祭観客賞ほか多くの映画賞を受賞。見るものすべてに再考を促す感動作。

「天安門」
カーマ・ヒントン＆リチャード・ゴードン監督作品(一九九五年)／アップリンク／一〇、五〇〇円(税込)／ビデオのみ

一九八九年六月四日、世界に衝撃が走った。「天安門事件」勃発。しかし諸説入り乱れ、「本当はいったい何が起こったのか」を知る手立てはあまりに少なかった。中国に育った米国人監督が製作した本作は、膨大な資料とインタビューをもとに、六月四日に至るまでの真実を探していく。

「ジャマイカ楽園の真実 Life & Debt」
ステファニー・ブラック監督作品(二〇〇一年)／アップリンク／三、九九〇円(税込)

多くの観光客が訪れるカリブの楽園ジャマイカ。しかし照りつける太陽の光が強いほど、その下には深い影が生まれていた。一九六二年にイギリスから独立した後、経済支援のため借りた多額の債務を抱えていたのだ。グローバル経済のひずみに苦しむジャマイカの「今」に迫った胸打つドキュメンタリー。全編を通して流れるレゲエの力強さがいつまでも耳に残る。

アップリンク
「アップリンク」は一九八七年に映画配給会社としてスタート。第一回配給作はデレク・ジャーマン監督「エンジェリック・カンヴァセーション」。その後、映画配給に留まらず、映画製作、DVD作成、書籍出版、ワークショップ、カフェ・ギャラリーの運営と幅広い活動を通して「インディペンデント・スピリット」を発信している。

●FACTORY/X/GALLERY/TABELA
東京都渋谷区宇田川町37－18
電話　03－6825－5502
http://www.uplink.co.jp/